

中学校
の部

熊本県知事賞

海で働く人たち

上天草市立維和中学校三年

藤本 希代美

「また、とってきたの？魚。」

私は、おじいちゃんに聞いた。私のおじいちゃんは七十歳を過ぎてからも漁師をしている。そして、家へ持って帰って新鮮な魚をさばいて、家族にふるまってくれる、優しいおじいちゃんなのだ。

でも、私たち兄弟には「魚、くさい」「魚嫌い。持ってこないで」と、思っている人たちが多かったと思う。私もおじいちゃんの仕事の大変さを知るまでは、そう思っていた。

それは、おじいちゃんがかんぱちを釣ってきた日のことだった。私たち家族の中で、人気な魚ナンバーワンのかんぱちは、毎日みんなに喜ばれる。「くさいなあ」と思いつつ、おじいちゃんがさばいているのを見ていた私におじいちゃん

は、

「切った分、食べていいぞ」

と言って、さし出してきた。嬉しい気持ちでかんぱちを食べていると、

「おいしそくに食べるね希代美は。うれしいよ」

と、笑顔で、本当に嬉しそうにおじいちゃんに言った。この時、私は涙が出そうになった。今まで、「くさい」と嫌そうな目で見る私に気が付いていたと思うのに、そんなことを気にせず、嬉しいと言ったおじいちゃんが、本当に大きく見えた。そして、前お母さんにおじいちゃんは、朝四時から、漁に出ると言われたことを思い出した。おじいちゃんのお仕事は、私たちがまたぐっすり眠っている時から始まっていたのだ。なんてすごい、大変

な仕事をしているのだらうと思った。私たち家族のために、朝早くから、魚のいる海へと出ていく姿は、たくましく見えた。おじいちゃんの漁師という仕事は、本当にかっこいい、と思ったこの日から、私は海を相手にする人のたくましさ、人一倍感動するようになったんだと思う。

おじいちゃんと同じようにおばあちゃんも、海を相手に仕事をしている人の一人だ。おばあちゃんはひじき取りをして、ひじきを売るといふ仕事をしている。この仕事も、本当に大変だ。おばあちゃんのひじき取りの手伝いをした時、大量のひじきを海岸から海岸の上まで運ぶのは、本当にきつくて、腰、足ともに筋肉痛になる程だった。こんなきつい仕事を毎年しているおばあちゃんって、本当にすごいと思ったし、ひじきが給食に出たリした時、「おばあちゃんが、取ったかもしれないひじきをみんながおいしそうに食べてる」と思ったら、嬉しかった。私の住んでいる島の周りには、きれいな海が広がっている。そして、私の周り



には、海を相手に働く人たちがたくさんいる。これらのごく当たり前の事に改めて気がついた私は、恵まれている、と思った。日本の中には、海を見たことがないという人もいるのに、私は、海で働く人たちの寛大さに気づくことができたのだ。たくさんの生命を抱える海に、助けられて、その海を大切に思い、海を相手にしているおじいちゃん、おばあちゃん、そして世界中の人に支えられて、今私は生きている。そのことに気づいた時、寿司屋とか、お店で見る魚たちが違ったものに見えてくる。海を相手にしている人の笑顔を被っているかのように……。

私はこれから、海で働く人たちのすこさを伝えていきたいな、と思う。もし、この人たちがいなかったら、この大きな海の宝を私たちは手にすることができなかったと思うと、世界中の人の笑顔が少し、いや、だいぶ減ると思った。その事を考えたら、私はすごい人たちに囲まれて生きているのだと思う。私も、時間がある時少しでも手伝いたい。

